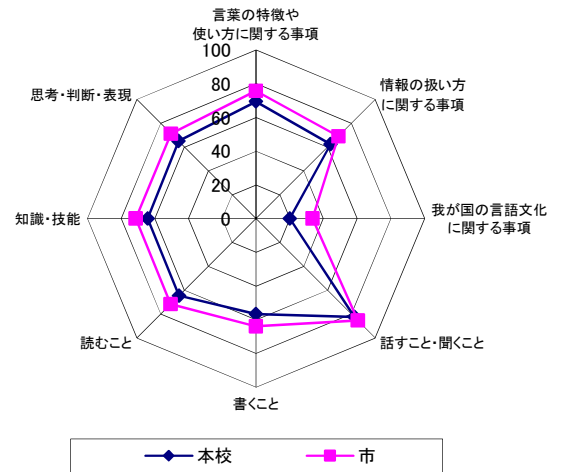


宇都宮市立陽光小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.4	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	62.5	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	20.0	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	82.5	85.5	86.5
	書くこと	56.7	63.9	65.8
	読むこと	64.6	71.6	69.5
	観点別	知識・技能	64.3	71.3
思考・判断・表現		65.0	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

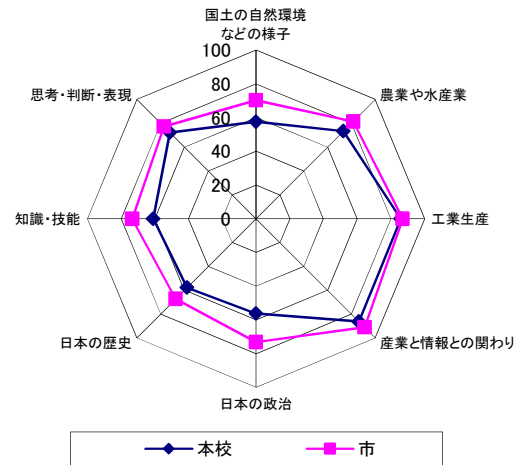
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ●言葉に関する問題では、市の平均正答率と比べ低いものがほとんどであった。特に、漢字の読み書きや熟語の成り立ちについての問題では、市の平均正答率と比べて15ポイント以上下回った。 ○敬語についての問題では、市の平均正答率を6.9ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きや熟語の成り立ちなどの語彙力を高めるために、朝の学習の時間等にAドリルを活用し、語彙を増やし定着させていく。また、朝の読書の時間では、小説などの読み物を積極的に読むように促していく。
情報の扱い方に関する事項	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ●原因と結果など情報と情報との関係についての問題では、市の平均正答率より6.6ポイント下回った。	・日常的に複数の情報が含まれる文章に親しませる。また、短文の中で、原因と結果、順序、共通と相違などの情報と情報の関係を具体的に指導したり、接続語について再度確認したりして関係性が理解できるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ●和語・漢語・外来語に関する問題では、市の平均正答率と比べ低く、13.5ポイント下回った。	・和語・漢語の違いを理解できるよう、二つの相違点を確認し、どの言葉がどれに当たるのかを区別する学習を反復的に取り入れ、習熟を図る。
話すこと・聞くこと	本領域の平均正答率は、市の平均とほぼ同等であった。 ○インタビューの内容を捉えて答える問題は市の平均正答率と同等であった。 ●話し方の工夫を選ぶ問題は市の平均正答率と比べ6.8ポイント低く、インタビューを聞いて内容を捉えて前後の文章に合わせて簡単な文を書く問題では、市の平均と比べて2.3ポイント低かった。	・話し方やインタビューをする場面において、どんな話し方の工夫ができるかを考えさせるだけでなく、その工夫によって得られる効果を確認し、話し方を工夫するよさを理解できるようにする。 ・要点を落とさないようにするメモの取り方や他者の意見との共通点や相違点を聞くなどのポイントについて指導するとともに、様々な話し合いの場を設定し、能力の向上を図る。
書くこと	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○目的に応じて簡単な文章を書く問題では、市の平均を2.4ポイント上回った。 ●記述式の問題の正答率が市の平均と比べて低く、無解答の割合も15%と高い。	・目的に応じた文章の書き方を指導したり、指定された長さや段落で文章を書いたりする学習活動を意図的に設定したりする。 ・無解答の割合が多く、書くことに対して抵抗を感じている児童が多いことが分かる。朝の学習や国語の授業の合間を使い、短文作りをすることで書くことに対する抵抗感を減らしていく。
読むこと	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ●物語文における全体像を具体的に想像する問題や、説明文における叙述を基に文章の内容を捉える問題では、市の平均と比べて低く、どちらも10ポイント以上下回った。	・物語文では、心情を表す描写を取り上げ、そのときの心情についてじっくり考えさせるなど、丁寧に指導を行う。説明文では、段落ごとの内容や文章の構成、接続語などの効果などについて確認し、要点を理解できるようにしていく。 ・教科書に掲載されている「言葉の広場」などを活用し、語彙を増やすことで、物語文・説明文の読解力を底上げを図る。

宇都宮市立陽光小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	57.5	70.3	66.4
	農業や水産業	73.3	81.6	75.3
	工業生産	85.8	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	86.3	91.0	81.3
	日本の政治	56.3	73.2	75.3
	日本の歴史	57.8	67.4	68.5
観点別	知識・技能	60.9	73.5	72.5
	思考・判断・表現	72.2	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

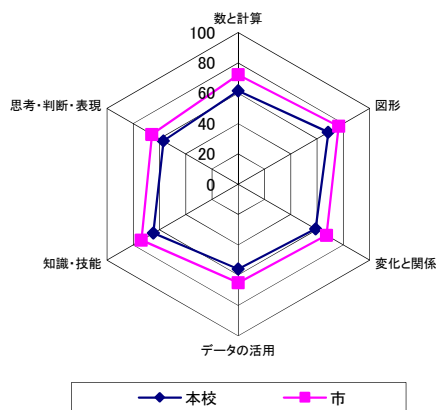
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ●海洋名を答える問題では9.7ポイント赤道を答える問題では12.8ポイント、市の平均正答率よりも下回っている。 ●季節風の特徴について選択する問題では、11ポイント下回っている。	・繰り返し復習する機会を設けたり、AIドリルを活用したりするなどして、基礎的な知識を定着させていく。 ・ニュースや毎日の天気、気象情報などの話題を意識して取り上げ、既習事項と関連付けて考えさせる機会を多く設ける。
農業や水産業	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○水揚げされた魚の出荷作業における工夫に関しては市の平均正答率と同等となっている。 ●米の生産の盛んな地域について地方名を選択する問題では、11.2ポイント、米の品種改良について資料を読み取り記述する問題では13.8ポイント、市の平均正答率を下回っている。	・地図や資料の読み取りについて繰り返し練習することにより、知識の定着と、資料活用の技能の向上を図る。 ・食料に関する話題や、課題などを取り上げいくことで、農業や水産業に対する関心を高めていく。
工業生産	本領域の平均正答率は、市の平均やや下回っている。 ○日本の貿易の変化の記述問題は、平均正答率が市の平均より7.6ポイント上回っている。 ○資料から安全性の高い車づくりについて考える問題では、市の平均を2.5ポイント上回っている。 ●自動車の製造行程については選択する問題では、13.6ポイント市の平均を下回っている。	・児童の関心の高い分野であることがうかがえるので、生活と結び付けながら考えさせるなど指導の仕方を工夫する。 ・工業生産の工程について、写真や動画などの資料を活用したり、分かったことをまとめるなどの表現活動を取り入れたりすることで、用語を理解させ、基礎的な知識の定着を促す。
産業と情報との関わり	本領域の平均正答率は85%を越えているが、市の平均正答率をやや下回っているが、 ●情報の発信と受信の注意点について選択する問題では4ポイント、情報を生かした産業について選択する問題では5.6ポイント市の平均を下回った。	・授業だけでなく日頃の生活と結び付けて指導することにより、知識の定着を図っていく。
日本の政治	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ●租税の役割について選択する問題では27ポイント、日本国憲法とは何かを選択する問題では16.2ポイント、市の平均を下回っている。	・政治と自分たちの生活が結びついていない児童が多いので、身近なニュースや政治に関する話題を取り上げるなど、関心を高める工夫をする。
日本の歴史	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ●織田信長の業績について選択する問題では13.7ポイント、中大皇子が行ったことを選択する問題では23.9ポイント、源氏物語で使われた文字について答える問題では18ポイント、市の平均を下回っている。	・基本的な知識を定着させるために、繰り返しミニテストを行う。 ・自分で調べ、得た情報を整理したり関連付けたりする活動を取り入れ、まとめるなど、表現する活動を取り入れていく。

宇都宮市立陽光小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	61.6	72.1	74.6
	図形	68.6	76.5	76.1
	変化と関係	59.0	67.1	59.7
	データの活用	56.0	65.0	64.5
観点別	知識・技能	64.6	73.8	74.7
	思考・判断・表現	56.9	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

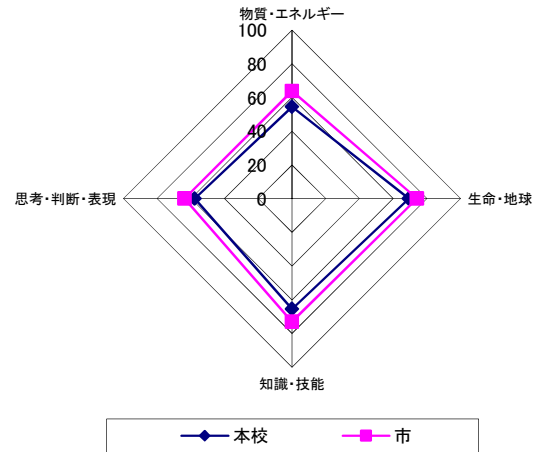
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>本領域の平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小数の除法や分数の乗法・除法の計算、文章問題に合った小数や分数の立式は、市の平均正答率を10ポイント以上下回っている。 ●基準量や比較量が分数の場合に比較量が基準量の何倍かを求める式を選ぶ問題は、市の平均を下回っている。 ●文字を使って、2つの数量関係を式に表したり、文字の式を利用して一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題が、市の平均正答率を10ポイント以上下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の学習の時間や家庭学習において、基礎的・基本的な学力の定着を図る取り組みを継続していく。習熟度別学習を活用し、個別での指導を充実させる。 ●文章問題では、絵や線分図を書いて数量関係を視覚的にも分かるようにし、立式できるよう指導していく。
図形	<p>本領域の平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平行四辺形の面積を求める問題は、市の平均正答率を上回っている。 ●半径が与えられた円の面積を求める問題は、市の平均を下回っている。 ●線対称な図形や点対称な図形に関わる問題では、市の平均正答率より10ポイント以上下回り、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●図形は、種類によって面積を求める式が違うので、ただ暗記をするのではなく、なぜそれぞれの公式になったのか考えさせることで知識の定着を図るようにしてきたので、今後も継続していく。 ●円の面積を求める公式や三角形の内角の和を使って外角の角度を求められることを再確認し、多くの問題を解くことで定着を図るようにしていく。 ●線対称や点対称な図形の理解は、方眼紙に対称な図形を作図させ、説明する学習を繰り返し行い定着を図る。
変化と関係	<p>本領域の平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○割合から込み具合を考察する問題では、市の平均正答率を上回っている。 ●速さや時間から道のりを求める問題は、市の平均正答率を下回っている。 ●基準量と割合から比較量を求める問題や単位量あたりの大きさを求めて説明する記述問題は、市の平均正答率を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●時間と道のりから速さを求める公式を再確認し、時間や道のりを求めるような練習問題を繰り返し解かせ、確かな定着を図る。 ●割合や単位量の大きさに関わる問題については、基礎・基本の問題を解くと同時に、問題場面を図や数直線にして表す作業などを取り入れ、立式に必要な知識を確認する。
データの活用	<p>本領域の平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ドットプロットから最頻値を読み取る問題や度数分布表を完成させる問題は市の平均正答率を下回っている。 ●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する問題は、市の平均正答率を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●集団の特徴を最大値や平均値、中央値、最頻値など、様々な見方で考察し、データの分布によって表現できるよう、対話的な学びによって説明する機会を設ける。 ●ヒストグラムの特徴とデータの散らばり具合の見方を比較することによって、集団の特徴や傾向を捉えられるように指導する。

宇都宮市立陽光小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	54.5	63.8	61.6
	生命・地球	69.4	74.1	73.3
観点別	知識・技能	65.4	73.0	71.3
	思考・判断・表現	57.7	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>本領域の平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <p>●電磁石の性質に関わる問題では15.5ポイント、実験結果から電磁石の強さを変える要因を考える問題では12.9ポイント、市の平均正答率を下回っている。</p> <p>●リトマス紙の反応と水溶液の性質に関する問題は市の平均と比べ約24.7ポイント下回っている。また、実験の仕方について説明する問題では、平均正答率が低く、無回答の児童も多い。</p>	<p>○児童が学習課題に対して仮説を立て、観察・実験、まとめまでの流れが一つの学習の形となるように様々な単元で繰り返し指導をする。</p> <p>・理科で学習した事象と様々な生活で使われているものや工場などで使う道具などの関連について、教科書の資料や動画などを活用して指導をする。</p> <p>・実験結果と考察を自分の言葉でまとめられるように、科学的思考力とともに考えを表現する言葉の力も育てていく。</p>
生命・地球	<p>本領域の平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <p>○動物の食べ物のもと最終的に植物にたどり着くことを選ぶ問題では、市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●流れる水のはたらきでは、侵食に関する問題の平均正答率が、市よりも21.4ポイント下回っている。</p>	<p>○学習内容の定着を図るため、生活の中で学習内容を活用できる場面を考えるなど、実感が伴う指導を行うようにする。</p> <p>・理科の用語や用具の使い方の知識が定着するようにしていく。</p>

宇都宮市立陽光小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力を身に付けるために、朝の学習の時間を活用し、学習内容の定着を図る。 ・AIドリル等を計画的に活用し、個に応じた目標達成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力テストの結果から、すべての教科で市の平均正答率を下回った。基礎的な用語や知識、技能について定着していないことが分かる。 ・「学習内容が分かるか」の問いに、肯定的回答をしている児童が多い。しかし、「習ったことを繰り返し学習している」の問いには市の肯定割合を下回っている。また、「平日の家庭学習をほとんどしていない」の問いに、ほとんどの学年が市の肯定割合を上回っている。
読解力・思考力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文の趣旨やポイントとなる言葉を見つける指導を丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国語」に対する肯定的回答が、学年が上がるにしたがって下がっている。 ・物語、説明文ともに、読み取り問題の平均正答率は市を下回っている。
言語活動(書く活動)の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実を図る。低学年は文字慣れと視写、中学年は読書と行事作文、高学年はに文脈を捉えた感想交換と意見文に触れるようにさせる。 ・本時のめあてに対するまとめを、自分の言葉で書く時間を設け、振り返りを確実に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて文章を書く問題では、市の平均正答率を下回っている。 ・「調べたことをパソコンを使って分かりやすくまとめること」は、市の肯定割合を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「平日に家庭学習をほとんどしない」の肯定割合が市よりも高いことから、家庭学習の時間が短い傾向が見られる。「新しく習ったことを何度も繰り返し練習している」の問いでも市の肯定割合を下回っている。基礎的な知識の定着を図るためには、学習したことを繰り返し練習することの継続が必要である。ドリル学習や自主学習の工夫、充実を行う。

・「目的や意図に応じて文章を書く」ことや「文章全体の構成や展開を考えて書く」ことの平均正答率が市を下回っている。また、「話合いに自分から進んで参加している」では市の肯定割合を上回っているが、「自分の考えを理由をあげながら話す」では市を下回っている学年が多い。目的や意図に沿って自分の考えをノートや1人1台端末に書き、それを基に話し合いをするなど、一層の表現力の向上を目指したい。